

夏休み明けメッセージ ①

夏休みの終わりが近づいてきて、あなたのころはいまなに色ですか？

私は真っ黒でした。

学校に行きたくなかった。学校が始まるのが怖かった。そして生きているのが辛かった。

私はそんな夏休みの終わりを過ごしていました。

どうやってその日々を生き延びたか。

私は自分の思いを言葉にすることが苦手だったので、相談はできなかったけど、ずっと本を読んでいた。

本を読んで、好きな言葉をメモすることに夢中でした。

あなたには、なにか夢中になれるものがありますか？

すぐに見つからなくても大丈夫。いま焦って何かを決める必要はない。

いろんなことやってみて、いろんな人に出会ってたくさんの経験を積みながらゆっくりやわやわ見つけていこう。

そして、いつかやりたいことが見つかったための、いまはゆっくりして美味しいもの食べようね。

そんな私からは「学校に行かなくてもいい」とも「学校に行ったほうがいい」とも言うことができません。

学校に行きたくても行けなかった寂しさ、学校に行きたくなかった苦しさ、学校を休むことでみんなに置いていかれるという不安、そんなものを私は感じてたから。

最後に私からみんなへ伝えたいメッセージがあります。

それは、ゲームにはリセットボタンがあって嫌になったら、またはじめからやり直すことができるけど、自分のいのちにはリセットボタンがないということ。

だから自分のいのちを守るために、あなたのころの声を聴いてみて欲しい。なんて言ってる？

夏休み明けメッセージ ②

夏休み明けを迎えるみなさんに

学校に行きづらいみなさん、特に生きづらさを抱えるみなさんに伝えたいことがあります。

みなさんが生きづらさを抱えるようになったのは、みなさんに原因があるのではなく、みなさんを取り巻く社会に問題があるからです。

みなさんが考えてきたこと、感じてきたことは間違っていないのです。

どうしてそう思うかと言うと、みなさんのところが純粹で汚れていないからです。

たとえば、「大人たちや学校・教室はこのままでいいのかなあ」と思ったことがあったでしょう。

そう考えたみなさんは正しかったのです。

家族や先生などの大人が信じられなくなったのではないですか。

みなさんが声をあげていける環境になっていないし、みなさんの声を受け止める環境になっていないのです。

わたしたち大人はみなさんと同じ人間であり、みなさんを上から目線で見たり、みなさんを理由もなく注意したりすることはおかしいのです。

みなさんを守ってくれる人々がかならずいます。

あきらめないでください。